

ISCNの広報活動について



2018年10月4日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
核不拡散・核セキュリティ総合支援センター

平成30年度第1回核不拡散科学技術フォーラム

目次

1. ISCNの活動の理念と目指す姿、広報活動の目的
2. ISCNの広報活動の基盤等
 - ① 核不拡散に関する政策研究
 - ② 「ISCNニューズレター」の編集
 - ③ 核不拡散科学技術フォーラムからの助言等の反映
3. ISCNの広報活動
 - 【1】メールマガジン及び機構Webサイトを通じた情報発信
 - ・ ニュースレター、「核不拡散動向」、HPによる発信
 - 【2】イベントを通じた情報発信
 - ・ 国外向け
 - ・ 国内向け
 - 【3】その他：プレス対応
4. 広報活動の成果の例、今後の広報活動

ISCNの活動の理念と目指す姿、広報活動の目的

核不拡散・核セキュリティ活動の理念

原子力研究開発の豊富な知識と
経験に立脚した技術力の結集

国内外の関係機関との十分な連携

原子力平和利用と核不拡散・
核セキュリティの両立に貢献

核不拡散・核セキュリティ活動の目指す三つの姿

- **原子力平和利用の円滑な推進役**

我が国の核物質の管理と利用に係る透明性確保について国を支援

- **国際社会から信頼される技術開発集団**

IAEA等の国際機関や各国の核不拡散・核セキュリティ分野で活用される技術を開発

- **能力構築支援に係る国際的なCOE（Center of Excellence）**

アジアを中心とした諸国に対して、核不拡散・核セキュリティ分野での能力構築に貢献
する人材育成支援事業を実施



ISCNの広報活動の目的

- ① 原子力関係者や関連分野の方々に対する核不拡散・核セキュリティの重要性の理解促進
- ② ISCNの活動への国内外の理解促進

ISCNの広報活動の基盤等

① 核不拡散に関する政策研究

政策立案の支援を行うとともに、ISCNの情報発信のベースとしている

核不拡散動向の情報収集・分析・発信

- 核不拡散・核セキュリティに係る米国トランプ政権、米国議会及びシンクタンク等の動向、IAEA、イランや北朝鮮の核問題、英国のユーラトム脱退等について情報を収集及び分析し公開
- 関係行政機関へも情報提供。



核不拡散ポケットブックの編纂

② 「ISCNニュースレター」（後述）の編集

社会へ発信する「ニュースレター」を、各室の「強み」を活かし、分かり易く編集

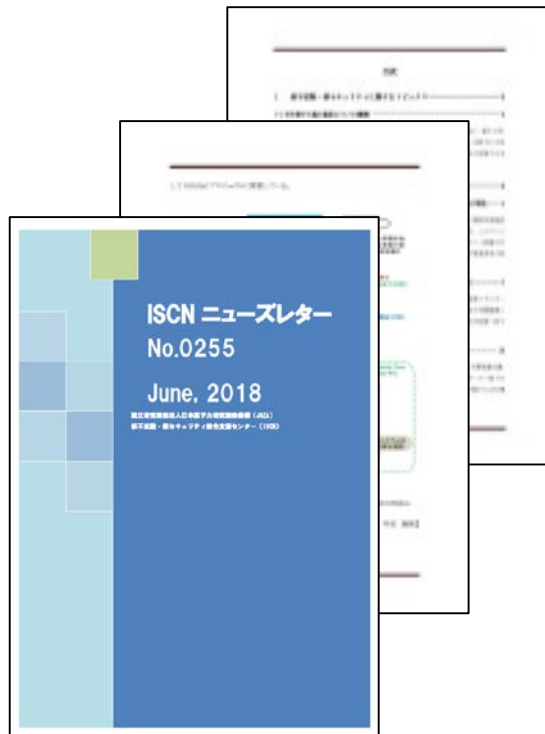
③ 核不拡散科学技術フォーラムからの助言等の反映

外部委員の方々から、社会科学的な専門的知見並びに
経営的視点からの助言・提言を頂き、活動に反映

ISCNの広報活動

【1】メールマガジン及び機構Webサイトを通じた情報発信 (主として国内向け)

- ISCNニュースレター（毎月配信）
- 核不拡散動向（資料集：2～3回更新/年）
- ISCNホームページ（<http://www.jaea.go.jp/04/iscn/>）



ISCNニュースレター

「核不拡散動向」

2018年3月23日版の内容

1. 原子力発電導入国の増加と核拡散の深刻化
2. 新たな多国間協力枠組み構築の動き
3. 新たな二国間協力枠組み構築の動き
4. 核不拡散・核セキュリティに関する話題
5. 米国トランプ政権の政策



ホームページ（日本語・英語）

ISCNの各室の「強み」を活かして、毎月編集・配信

< 最近の主な掲載項目 >

政策調査室によるタイムリーな動向分析と解説

- 米国のイラン核合意(JCPOA)からの離脱表明後の動向について JCPOAに代わる新たな協定(合意)の可能性
- 核不拡散条約(NPT)署名開放50周年
- 朝鮮半島の非核化に係る米朝首脳会談の共同声明
- 6月のIAEA理事会における天野事務局長冒頭演説(核不拡散、核セキュリティ関連部分)
- トランプ政権のFY2019予算教書(核不拡散、核セキュリティ、軍備管理・軍縮及び原子力利用に係る部分のポイント)、等

能力構築支援活動の状況や国際会議への参加報告等

- 核物質及び原子力施設の物理的防護に関するトレーニング
- IAEA「核セキュリティ支援センター国際ネットワーク(NSSCネットワーク)」年次会合のISCNによるホスト
- 核不拡散・核セキュリティのための技術開発に係るワークショップ
- 再処理施設保障措置に係るトレーニングの実施
- IAEA核物質防護に関する国際会議(ウィーン)におけるISCN活動報告、等

核不拡散・核セキュリティに関する技術開発の紹介

- 核・放射線テロ事象後を対象とした核鑑識技術開発の概要とその展望
- 先進的Puモニタリング技術開発 FPを含むPu溶液のモニタリング技術に係る適用性調査研究-概要とセル内ガンマ線線量率測定-
- コンプトンイメージング法を用いたガンマ線源分布の測定と核セキュリティでの応用、等

平易な言葉で興味深いテーマを取り上げたコラムも随時掲載

- My experiences working in ISCN and living in Japan
- IAEAとIAEA保障措置の最近の動向、等

2017年9月よりWebアンケートも実施中

【2】イベントを通じた情報発信 ①国外向け（その1）

ISCN主催のWSの開催による、海外の専門家向けの情報発信

（実施例）米国ワシントンDCでのワークショップ（米国エネルギー省共催）

- 米国の核不拡散・核セキュリティの専門家にDOEとJAEA間の協力を理解してもらうため、2012年よりワシントンDCで毎年1回開催
- 2018年7月の開催で7回目になるが、具体的な日米協力の中身について米国の専門家に紹介する貴重な機会として、関係者に定着



核不拡散・核セキュリティに係る国際的議論の場への参画と情報発信

（実施例）

- 日本政府が主催した「核テロに対抗するためのグローバル・イニシアチブ（GICNT）会合（平成29年6月）」において、機構の施設の視察や核鑑識に係る技術シンポジウムをサイドイベントとして開催。機構の技術開発・人材育成の取組を発信するとともに国を支援。
- IAEAの「核セキュリティ訓練支援センター（NSSC）」ネットワーク会議（平成30年3月）や「地層処分に係る保障措置のIAEA専門家会合（ASTOR）」（平成29年4月）をJAEAが日本でホスト。前者は議長として議論をリードするとともに、機構の施設の視察をアジェンダに組み込み、良好事例などの情報の発信を行うとともにIAEAを支援。

【2】イベントを通じた情報発信 ①国外向け（その2）

関係者が集まる大規模な国際会議等でのサイドイベント等による情報発信

（実施例）

IAEA核セキュリティ国際会議（ウィーン）

➤ **国際パネルの開催**

「アジアの核セキュリティ支援センター：ハーモナイゼーションと連携」
（2013年12月）

「アジアにおける核セキュリティCOE：進展及び今後」
（2016年12月）

➤ **ISCNブースの設置**

IAEA年次総会

➤ **サイドイベントの開催** * 配布資料参照
「DOE-JAEA協力30周年」（2018年9月）

ASEAN+3（日中韓）エネルギー関係会議

➤ **日中韓の人材育成セッションに継続的に参加**
⇒ ISCNの活動をASEAN大に展開



その他の国際会議（小規模なものを含む）やワークショップにも積極的に参加し、意見交換、情報発信を実施

【2】イベントを通じた情報発信 ②国内向け

原子力平和利用と 核不拡散・核セキュリティに関する国際フォーラム

平成18年より開催。最近の実施テーマ



核不拡散の
動向調査・分析

能力構築支援活動

核不拡散・
核セキュリティに
関する技術開発

平成26年12月3日

エネルギー基本計画を受け今後の核不拡散向上のための
方向性及び人材育成COEのあり方について

平成28年2月9日

核セキュリティ・サミット以降の国際的なモメンタム維持及び
核不拡散体制の強化に向けて

平成28年11月29日

核セキュリティ・サミット以降の国際的なモメンタム維持及び
核軍縮への技術的貢献

平成29年12月7日

「核テロ対策の強化と人材育成
～東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて～」

外部からの意見も踏まえたタイムリーなテーマで、
核不拡散・核セキュリティの重要性の理解促進に寄与

【3】その他：プレス対応（最近のプレス発表例）

27年度	4月27日	これまでになく強く明るいX線を発生する新たな技術誕生へ – 毎秒1億回の電子ビーム・レーザー衝突でX線を作る – * 高エネルギー加速器研究機構との共同研究
	12月4日	ワークショップ「核セキュリティの確保 ～内部脅威対策への考察～」の開催について（取材案内）
	1月29日	「原子力平和利用と核不拡散・核セキュリティに係る国際フォーラム」及び「核不拡散・核セキュリティを支える技術開発に係るシンポジウム」の開催について（取材案内）
28年度	9月12日	ラグビーボール型に変形した原子核のハサミ状振動を解明 * 量子科学技術研究開発機構主体
	11月18日	「原子力平和利用と核不拡散・核セキュリティに係る国際フォーラム」の開催について（取材案内）
	1月6日	ワークショップ「核セキュリティの確保：内部脅威対策と信頼性確認制度」の開催について（取材案内）
29年度	5月26日	「核セキュリティを支える技術開発に係る国際シンポジウム」の開催について（取材案内）
	7月20日	包括的核実験禁止条約(CTBT)の遵守検証能力を強化するための放射性希ガス共同観測プロジェクト立上げについて
	11月29日	「原子力平和利用と核不拡散・核セキュリティに係る国際フォーラム」の開催について（取材案内）
	1月17日	ワークショップ「核セキュリティ事案の初期判断：安全とセキュリティのインターフェース」の開催について（取材案内）
	1月24日	包括的核実験禁止条約機関の核実験検知能力強化を目的とした北海道幌延町での放射性希ガス共同観測開始について（取材案内）
	2月23日	「核セキュリティトレーニングセンター(NSSC)・ネットワーク年次会合」の開催について（取材案内）
	3月5日	包括的核実験禁止条約機関の核実験検知能力強化を目的とした青森県むつ市での放射性希ガス共同観測開始について

技術開発、CTBT協力、各種フォーラム等について積極的に情報発信

北朝鮮非核化関連をはじめとするプレス取材、問合せが増加

⇒ **積極的に対応し、ISCNで蓄積した知識・経験を広く社会に活かす**

ISCNの広報活動の成果の例

- 東京オリンピック・パラリンピックを控え、大規模イベントにおける核テロ対策の強化等が求められている中で、これをテーマとした国際フォーラムを開催し、課題・対応について国内外の関係者の認識を深められるとともに、警備当局との連携・協力の開始につながった。
- 国際会議における議長としての議論のリード、機構施設の視察や技術シンポジウムの開催等により、技術開発・人材育成等についての理解促進・情報共有を進めることができた。

今後のISCNの広報活動について

- 国際フォーラムや「ニュースレター」でのアンケート等から得られた意見も活動に反映しているが、意見の数は限られている。より広く意見を集める効果的な方策を検討したい。
- 広報活動の受け手は、核不拡散・核セキュリティ等に関係する分野の方々が中心であり、社会一般の皆様を視野に入れた「より広い対象へのアプローチ」の実施についても検討していきたい。

より広いアプローチと、より広い対象からのフィードバックを目指す